

平塚柔道物語 6 0

## 保護者の死

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

こんなことがあってよいものだろうか。いつも笑顔のこんないい人が？ 平成25年8月25日、平塚柔道協会の会員である井上大地君(中2)と実緒さん(小6)のお母さんである「いずみさん」が、くも膜下出血で救急車で病院に運ばれ、もう助からないと医師から告げられたという。そして8日目の9月2日、39歳の若さで亡くなられたのであった。いつも柔道場に見えて、明るい笑顔で子供達に練習を見守っていたのである。通夜は小中学生を初め、本人の職場・PTA・柔道関係者の方々に列をなしており、本人の生前の人柄を物語っているようだった。通夜と告別式の2日間、私も出席させていただいたが、御主人の義章さんと子供達2人は、背筋を伸ばし毅然として丁寧に参列者に挨拶をしていた。きっとこの8日間は看病しながら泣きつくしたに違いない。いずみさんのお父さんは2日間、泣きっぱなしであった。私と同年齢のお父さんは、「まさかこの年で、娘が亡くなるとは全く思っていなかった。倒れた娘が8日間生きていたことで、心の葛藤を整理することができた。でもこの2日間また泣いてしまった」と私に語っていた。

大地君は8月31日は病院を抜け出し、伊志田高校杯の大会に出場、2年生にして準優勝の栄冠を獲得した。そして夜、病床の母に報告したに違いない。彼も複雑な思いの中で柔道の試合に集中し、活躍することによって自らを励ましていたのであろう。妹の実緒さんも、8月の初めの平塚少年柔道大会で全選手を代表して「宣誓」を行った。元気よくできたことで、母のいずみさんも喜んでいた表情が私の心に今でも鮮明に残っている。

真田教師は通夜が終わってから柔道場に来て皆に葬儀のことを報告した。そして「君たちのお父さん、お母さんが、もし今なくなったらどう思う？ 両親が元気でいられることはいかに幸せなことか。今の環境を感謝しなければいけないよ」と指導。考えてみると、真田教師もお父さんが38歳の若さでなくなっているの、彼もまた格別の思いであったに違いない。

人生は何が起きるかわからないものである。何が起きても人生は常に前向きに生きることが望ましい。それはなかなか難しいことではあるけれども・・・。それを見事に私たちの前で見せてくれた御主人に私は感動した。そこで、ぜひ、御主人の通夜のごあいさつを紹介したい。

「いつもニコニコと明るくて心優しい妻でした。家族はもちろんのこと周りの方々を自分のこと以上に気にかけていたものです。そんな妻にとって介護の仕事はまさに天職だったようです。精神的にも肉体的にも大変だったでしょうが、誇りを持って頑張っていました。私もできる限り妻を支え、互いに助け合いながら歩んできた日々でした。平成25年9月2日、井上いずみは39歳を以て天命いかんともし難く悠久の旅路につきました。誰よりも子供たちのことを大切にしていた妻、息子と娘の柔道の練習を見に行ったり、試合になると熱心に応援したり、仲良く楽しい時間を過ごすことができました。かけがえのない思い出が次々とよみがえります。早すぎる別れに切なさはあるのですが、家族思いの優しい妻のことですから、これからも見守ってくれると信じています。『頑張ったねありがとう。子供たちのことはちゃんと育てるから心配いらないよ。みんなの心の中でずっと生きているから、これからも4人家族だからね』最期にかけた妻への言葉を胸に刻み、子供たちと前を向いて歩いて行くつもりです」と。

1週間後、御主人は道場にあいさつに来て「子供たちや私たちが前向きに進むことができた要因は、柔道があったからです」と語り、仲間たち、指導者たちに心から感謝の意を述べていた。



毎日見舞いに駆け付けた  
真田教師と井上兄妹